

- 問1 地球温暖化対策を目的とした国際的な取り組みにおいて、1997年と2015年の状況を比較した説明として、空欄に当てはまる適切な語句の組み合わせを選びなさい。1997年の枠組みでは（①）に対して削減が義務付けられたが、2015年の（②）では、すべての国が削減目標を定めて取り組むことになった。（2022年 茨城県公立入試 類似）
1. ① すべての国 / ② 京都議定書 2. ① 先進国 / ② ワシントン条約 3. ① 先進国 / ② パリ協定 4. ① 途上国 / ② パリ協定
- 問2 1960年代の高度経済成長期に制定された公害対策基本法を継承・発展させる形で、1993年に新たに制定された、日本の環境政策の根幹をなす法律は何ですか。（2022年 愛知県公立入試 類似）
1. 公害対策基本法 2. 環境基本法 3. 環境基本条例 4. 環境省設置法
- 問3 東京二〇二〇大会では、全国の自治体から提供された木材を選手村の施設に使用し、大会終了後にそれらを再び各地域へ戻して公共施設などで再利用する取り組みが行われました。このような「資源を循環させる取り組み」が目指している目的として、最も適切な説明はどれですか。（2023年 山梨県公立入試 類似）
1. 自然界の浄化能力を無視しても、都市部での建設コストを最小限に抑えること 2. 大量生産と大量消費をさらに促進し、工業化による経済成長を最優先すること 3. 新たな資源の消費を抑制し、廃棄物を減らすことで地球環境への負荷を軽減すること 4. 一度使用した資源はすべて廃棄し、常に新しい素材を導入することで利便性を高めること
- 問4 現代のエネルギー問題において、太陽光発電が「再生可能エネルギー」の一つとして期待されている主な理由として、地球環境への影響の観点から説明したものはどれですか。（2019年 奈良県公立入試 類似）
1. 放射性廃棄物を排出しないため、原子力発電に代わる安価で安定したベースロード電源になるから。 2. 酸性雨の原因となる硫黄酸化物を完全に除去した状態で、大気中に放流できる仕組みだから。 3. 発電時に二酸化炭素などの温室効果ガスを排出しないため、地球温暖化の抑制に貢献できるから。 4. プラスチックなどの廃棄物を原料として再利用するため、循環型社会の形成に直結するから。
- 問5 国際社会において、北半球に多く分布する経済的に豊かな先進工業国と、南半球に多く分布する開発途上にある国々との間に生じている、所得や生活水準の深刻な経済格差のことを何と呼びますか。（2024年 北海道公立入試 類似）
1. 南北問題 2. 南南問題 3. 持続可能な開発 4. モノカルチャー経済
- 問6 日本の国際協力の一環として、機械を使わず竹や鉄管などの身近な素材と人力のみで深い井戸を掘削する「上総掘り（かずさばり）」という技術が現地の人々に伝えられることがあります。このように、あえて高度な動力を使わない手法を伝える主な目的は何ですか。（2025年 栃木県公立入試 類似）
1. 特別な動力や高度な部品を必要とせず、現地の素材を活用して住民が持続的に水資源を確保できるようにするため。 2. 大規模なダム開発が行われるまでの間、一時的に水を確保するための応急処置として活用するため。 3. 現地の安価な労働力を永続的に確保し、先進国の多国籍企業が進出しやすい環境を整えるため。 4. 化石燃料の消費を増やし、先進国のエネルギー産業を現地で活性化させるため。
- 問7 パキスタンにおけるサッカーボールの製造現場などで発生していた、子どもたちが学校に通えず労働に従事させられる「児童労働」の問題を解決し、生産者が公正な対価を得られるようにするための活動を何といいますか。（2024年 神奈川県公立入試 類似）
1. フェアトレード 2. 資源ナショナリズム 3. モノカルチャー経済 4. エコツーリズム
- 問8 「将来の世代が自分たちのニーズを満たす能力を損なうことなく、現代の世代のニーズを満たすような発展」という考え方は、現代社会において非常に重要視されています。この、環境の保全と開発を両立させようとする概念を何と呼びますか。（2023年 福岡県公立入試 類似）
1. 経済優先の開発 2. 供給過剰な社会 3. 持続可能な開発 4. 急速な都市化
- 問9 2000年に開催されたハノーバー万国博覧会の背景にある「酸性雨」の被害について、ドイツの森林被害が自国のみならず周辺諸国の影響も受けて広範囲にわたった要因として、最も適切な説明はどれですか。（2023年 東京都公立入試 類似）
1. 中緯度帯の上空を一年中西から東へと吹いている偏西風が、汚染物質を遠方まで運んだため 2. 赤道付近から高緯度地域に向かって吹く貿易風が、熱帯の汚染物質をヨーロッパへ運んだため 3. 季節によって吹く方向が逆転する季節風が、夏と冬で交互に汚染物質を循環させたため 4. 山岳地帯から平地に向かって吹き下ろす局地的な風が、特定の森林に汚染物質を停滞させたため
- 問10 持続可能な社会の実現を目指す「3R」という取り組みの中で、製品を製造したり購入したりする際に、廃棄物の発生そのものを抑制することを何と呼びますか。（2019年 山口県公立入試 類似）
1. リフューズ 2. リユース 3. リデュース 4. リサイクル
- 問11 持続可能な社会の実現に向けて、資源を有効に活用する「循環型社会」の形成が求められています。この取り組みの基本となる「3R」において、製品の製造段階で資源の使用量を抑えたり、マイバッグを持参してレジ袋を断ったりすることで、ごみそのものを減らす取り組みを何と呼びますか。（2017年 鳥取県公立入試 類似）
1. リサイクル（Recycle） 2. ゼロ・エミッション（Zero Emission） 3. リデュース（Reduce） 4. リユース（Reuse）
- 問12 地球環境問題の解決を目指し、国土交通省などが推奨している「エコ通勤」の主な目的として、最も適切な説明はどれですか。（2017年 鹿児島県公立入試 類似）
1. 自家用車の利用を控えて公共交通機関等へ転換し、温室効果ガスの排出量を削減して地球温暖化を防ぐこと 2. プラスチックごみの排出を抑制し、海洋汚染を防止して生態系を守る 3. 二酸化硫黄の排出を制限し、森林や湖沼に被害を与える酸性雨を防ぐこと 4. フロンガスの放出を抑え、オゾン層の破壊を食い止めること
- 問13 日本が掲げる「ゼロカーボン」の方針において、その導入量をこれまでの3倍以上に拡大させることが検討されているエネルギー源があります。このエネルギー源の性質として、普及が求められている最大の理由は何ですか。（2022年 長野県公立入試 類似）
1. 石炭や石油といった化石燃料を効率よく燃焼させ、電力を得るため。 2. 発電の過程で地球温暖化の原因となる二酸化炭素を排出しないため。 3. 日本国内に埋蔵されている豊富な地下資源をそのまま活用できるため。 4. 天候や時間帯に左右されず、常に一定の電力を安定して供給できるため。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 ① 先進国 / ② パリ協定	1997年に開催されたCOP3で採択された京都議定書では、日本や欧米などの先進国に具体的な削減率が割り当てられ、義務化されました。これに対し、2015年のCOP21で採択されたパリ協定は、歴史上はじめて途上国を含むすべての国が参加する公平な枠組みとして成立した点が大きな特徴です。
問2	答え 2 環境基本法	1967年に制定された公害対策基本法は、深刻化する公害問題への対応を主目的としていました。しかし、1990年代に入ると地球温暖化などの地球規模の課題が顕在化したため、より包括的な対策を行うために1993年に環境基本法が制定されました。この法律により、公害防止だけでなく、自然環境の保全や地球環境の保護が基本理念として定められました。
問3	答え 3 新たな資源の消費を抑制し、廃棄物を減らすことで地球環境への負荷を軽減すること	各地から集めた木材を大会後に返却して再利用するフローは、資源を一度の利用で終わらせない「循環」の象徴的な事例です。このような取り組みは、森林資源の再生を助け、廃棄による環境負荷を抑えることを目的としています。持続可能な社会（サステナブルな社会）の実現に向けた具体的なアクションとして位置づけられています。
問4	答え 3 発電時に二酸化炭素などの温室効果ガスを排出しないため、地球温暖化の抑制に貢献できるから。	再生可能エネルギーの導入が求められている背景には、深刻化する地球温暖化への対策があります。太陽光発電は、発電過程で環境負荷物質である二酸化炭素を排出しない性質を持っており、これが持続可能な社会を目指す上での大きなメリットとされています。設問にある「廃棄物の再利用」はバイオマス発電やリサイクルに関連する記述であり、太陽光発電の特性とは異なります。
問5	答え 1 南北問題	1960年代から国際社会の大きな課題として認識されるようになった概念です。かつての植民地支配の影響や、原材料を安く輸出し工業製品を高く輸入するという貿易構造などが原因で、豊かな北側の国々と貧しい南側の国々の差が広がった状態を指します。
問6	答え 1 特別な動力や高度な部品を必要とせず、現地の素材を活用して住民が持続的に水資源を確保できるようにするため。	「上総掘り」は日本の伝統的な技術であり、現地で入手可能な竹などを活用できる点が最大の特徴です。途上国支援において、自国で維持・管理できない高度な機械を導入するよりも、現地の住民が自らの手でメンテナンスし、継続して利用できる技術（適正技術）を伝えることが、真の自立支援につながります。
問7	答え 1 フェアトレード	かつてサッカーボールの縫製作業などで深刻な社会問題となっていた児童労働をなくすため、国際的な基準に基づき製品を適正な価格で買い取る仕組みが導入されました。これにより、大人の労働者に適切な賃金が支払われ、子どもが労働ではなく教育を受けられる環境が整えられています。
問8	答え 3 持続可能な開発	1987年の「環境と開発に関する世界委員会」の報告書で提唱された考え方です。現代の私たちが資源を使い果たしたり環境を破壊したりせず、将来の世代も幸福な生活を送れるように配慮しながら社会を発展させていくことを指します。
問9	答え 1 中緯度帯の上空を一年中西から東へと吹いている偏西風が、汚染物質を遠方まで運んだため	酸性雨は、工場や自動車から排出された窒素酸化物や硫黄酸化物が原因となりますが、これらは偏西風に乗って国境を越え、数百キロメートル以上離れた地域にまで運ばれるという特徴があります。ヨーロッパでは、ある国で発生した汚染物質が偏西風によって他国の森林や湖沼に被害をもたらすことが大きな国際問題となり、国際的な枠組みでの対策が進められるきっかけとなりました。
問10	答え 3 リデュース	3R（リデュース、リユース、リサイクル）のうち、最も優先順位が高いとされるのが、ゴミの発生を元から断つ「リデュース」です。これには過剰な包装を断ることや、製品を長く使うように工夫することなどが含まれます。一方、「リユース」は再使用、「リサイクル」は再生利用を指します。
問11	答え 3 リデュース（Reduce）	循環型社会形成推進基本法では、資源を大切に使うための優先順位が定められています。最も優先されるべきは、ごみが発生すること自体を抑制する「リデュース（発生抑制）」です。その次に、一度使ったものをそのままの形で繰り返し使う「リユース（再使用）」、そして最後に、ごみを資源として再び製品にする「リサイクル（再生利用）」が続きます。
問12	答え 1 自家用車の利用を控えて公共交通機関等へ転換し、温室効果ガスの排出量を削減して地球温暖化を防ぐこと	二酸化炭素などの温室効果ガスが原因で、地球全体の平均気温が上昇する地球温暖化が深刻な問題となっています。国土交通省が推進する「エコ通勤」は、移動手段を二酸化炭素排出量の多い自家用車から、1人あたりの排出量が少ない公共交通機関（バスや鉄道）や、排出のない自転車・徒歩等に転換させることで、温室効果ガスの排出削減を目指す取り組みです。フロンガスはオゾン層破壊、二酸化硫黄は酸性雨の原因であり、混同しないよう注意が必要です。
問13	答え 2 発電の過程で地球温暖化の原因となる二酸化炭素を排出しないため。	持続可能な社会を構築する上で、温室効果ガスの排出を実質ゼロにするカーボンニュートラルの達成は重要な課題です。太陽光や風力といったエネルギーは、発電時に二酸化炭素を排出しないという特徴を持っており、気候変動対策の要として大規模な導入拡大が計画されています。